

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条第 1 項に基づく

中 津 市 教 育 委 員 会 施 策 の
点 検 ・ 評 価 に 関 す る 報 告 書
(令和 5 年度対象)

令和 6 年 8 月 2 3 日

中津市教育委員会

目 次

I	はじめに	1
1.	目的	1
2.	点検・評価の実施方法等	1
(1)	法定事項	1
(2)	実施方法	1
3.	自己評価及び総合評価の判定基準	2
(1)	自己評価について	2
(2)	総合評価について	2
II	点検・評価	3
1.	施策名と評価一覧	3
2.	評価の分析	5
3.	施策毎の目標、達成状況等	6
(1)	表の見方	6
(2)	各施策の内容	7
III	学識経験を有する者の知見	39
IV	おわりに	46

I はじめに

1. 目的

平成 19 年 6 月に一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和 31 年法律第 162 号）第 26 条第 1 項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理・執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとされました。

そこで、中津市教育委員会では、教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかについて、教育委員会自らが事後にチェックし、今後の効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たすため、この点検・評価を実施し、報告書にとりまとめました。

2. 点検・評価の実施方法等

（1）法定事項

点検・評価の実施については、次の 4 点が法定事項になっています。

- ①毎年実施すること。
- ②教育委員会の権限に属する事務（教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務を含む。）の管理・執行状況について点検・評価を行うこと。
- ③点検・評価の実施に当たっては、学識経験を有する者の知見の活用を図ること。
- ④点検・評価結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに公表を行うこと。

（2）実施方法

①対象期間

令和 5 年度の管理・執行状況

②点検・評価の項目について

中津市教育委員会では、市教育行政の長期的、総合的な指針として、「なかつ安心・元気・未来プラン 2017（第五次中津市総合計画）」及び「第 2 期中津市教育振興基本計画」に基づき各種施策を推進しており、令和 5 年度は重点的な 25 項目について点検・評価を行いました。

③学識経験を有する者の知見の活用について

教育に関し学識経験を有する者の知見活用に当たっては、教育に関して公正な意見を述べるのが期待できる人の知見を活用しました。

④報告・公表方法

点検・評価結果に関する報告書は、定例市議会（教育厚生委員会）に提出し、その後、中津市教育委員会のホームページに公表します。

3. 自己評価及び総合評価の判定基準

(1) 自己評価について

事業主管課長が、適応性・効率性・達成度の3つの着眼点で、5段階で自己評価しました。

評価項目	着 眼 点
適応性	①市民ニーズや社会の変化に対応しているか
	②同じ目的を達成するために他に手段はないか
効率性	③内容の見直しや重点化を行っているか
	④事業の円滑な推進のための調整を行っているか
達成度	⑤当初の目標どおりに進めることができているか

【ランク説明】

ランク	着 眼 点
5	達成（80%以上）
4	着実に進捗（相当程度達成・79～60%）
3	やや不十分（59～40%）
2	不十分（39～20%）
1	抜本的見直しが必要（19～0%）

(2) 総合評価について

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価をしました。

ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

Ⅱ 点検・評価

以下に、令和5年度の具体的な施策内容、評価結果などについて報告します。

1. 施策名と評価一覧

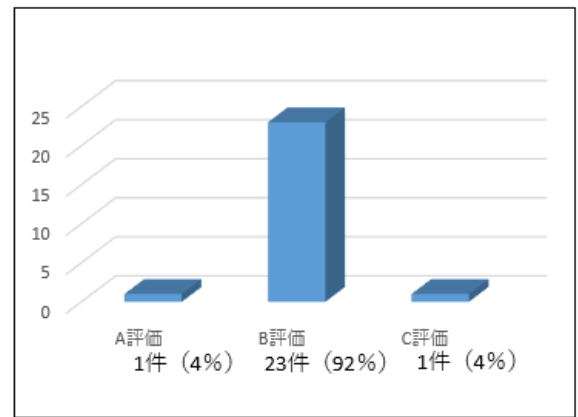
施策別 基本目標	基本姿勢	施策名	自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (学校教育)	小・中学校教育の 充実	1 確かな学力の育成	3	C	学校教育課
		2 組織的ないじめ・不登校対策 の推進	3	B	学校教育課
		3 新しい時代に必要な総合力の 育成	4	B	学校教育課
	幼児教育の充実	4 幼稚園教育内容の充実	4	B	学校教育課
	安心安全な学校施設 の計画的整備促進	5 安心安全な学校施設の計画的 整備	4	A	教育総務課
	学校給食の充実	6 安全・安心な給食提供のため の環境整備及び地産地消の推 進	4	B	体育・給食 課
学びたい教育の まちづくり (生涯学習・産 業教育の推進)	生涯学習の推進	7 生涯学習推進基盤の整備及び 公民館、コミュニティーセン ターの利用促進	3	B	社会教育課
		8 学習機会の拡充と学習効果の 活用	3	B	社会教育課
		9 新中津市学校の活用	4	B	社会教育課
	教育の協働の推進	10 協育による中津の子ども未来 創造事業の充実	3	B	社会教育課
	生涯学習センター「ま なびん館」の充実	11 生涯学習センター事業の推進	3	B	社会教育課
	産業教育の推進	12 体験学習・遠隔講座等を通した未 来を広げるキャリア教育の推進	4	B	学校教育課
		13 多様な体験の場の活用	3	B	社会教育課
	図書館の充実	14 図書館機能の充実	4	B	小幡記念図 書館
		15 読書活動の推進	4	B	小幡記念図 書館

施策別 基本目標	基本姿勢	施策名		自己 評価	総合 評価	所管課
学びたい教育の まちづくり (文化・スポーツの推進)	スポーツの振興	16	生涯スポーツの推進	3	B	体育・給食課
		17	競技力向上及びジュニアの育成	3	B	体育・給食課
		18	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	3	B	体育・給食課
		19	令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）受け入れ準備	3	B	体育・給食課
	文化・芸術活動の推進	20	文化施設の充実	4	B	社会教育課
		21	文化芸術活動の推進	3	B	社会教育課
	歴史と文化の伝承	22	文化財調査の充実と保護の促進	4	B	社会教育課
		23	文化財整備・活用の推進	4	B	社会教育課
		24	博物館を核とした中津市の魅力発信	4	B	社会教育課
	教育委員会活動の充実	25	教育委員会の機能強化	4	B	教育総務課

2. 評価の分析

教育委員会及び課長級で構成された中津市教育委員会施策評価実行委員会が、目標、達成度、自己評価を総合的に判断して、5段階で総合評価したところ、A評価1件、B評価23件、C評価1件となりました。

各課では教育の向上を図るために、毎年より高い意識を持って施策の目標設定を行っており、その達成に努めています。



ランク	着 眼 点
A	優れた取り組みが多く、十分成果が上がっている
B	優れた取り組みがいくつかあり、成果が見える
C	一定の成果が見られるが、更なる取り組みを要する
D	成果が上がってなく、改善を必要とする
E	抜本的見直しが必要

その結果、25項目ある施策の概ねが、優れた取り組みにより成果が見える状況であります。

A評価の施策である「安心安全な学校施設の計画的整備」では、令和3年3月に策定した「中津市学校施設長寿命化計画」に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努めてきました。

校舎内のトイレの洋式化改修は令和4年度に完了し、令和5年度は小学校2校の屋外トイレの洋式化改修、中学校1校の屋外トイレの改築を行いました。また、省エネルギー化及び環境向上を図るため、小学校4校、中学校3校の屋内運動場の照明設備のLED化改修工事を実施しました。

令和5年7月の豪雨にて被災した城井小学校のグラウンド、耶馬溪中学校の駐輪場については、迅速な復旧作業に努めるとともに、国庫補助金を最大限活用し、成果を上げることが出来ました。

しかしながら、「確かな学力の育成」では、全国学力・学習状況調査の結果、全国平均以上の学校数が前年度から減少したことや、全体として下降傾向にあることから、更なる取り組みを要するとしてC評価となりました。授業改善と学び直し週間、ICT(AIドリル)を活用した補充学習・家庭学習の取り組みのサイクルの徹底を今後さらに図ります。また、若手教職員の人材育成の取り組みを、授業力向上・学力向上につなげていきます。

そのほかの施策においては、優れた取り組みが見受けられ、更なる取り組みを要するものや改善を必要とするものなどの評価はありませんでしたが、今後も引き続き高い目標の達成を目指し、施策の設定及び評価を継続して取り組んで参りたいと考えています。

3. 施策毎の目標、達成状況等

(1) 表の見方

表の項目について、大、中、小とありますが、これは、それぞれ大分類（施策別基本目標）、中分類（基本姿勢）、小分類（施策名）を指しています。

大 分 類		中 分 類	
1	学びたい教育のまちづくり (学校教育)	A	小・中学校教育の充実
		B	幼児教育の充実
		C	安心安全な学校施設の計画的整備促進
		D	学校給食の充実
2	学びたい教育のまちづくり (生涯学習・産業教育の推進)	E	生涯学習の推進
		F	教育の協働の推進
		G	生涯学習センター「学びん館」の充実
		H	産業教育の推進
		I	図書館の充実
3	学びたい教育のまちづくり (文化・スポーツの推進)	J	スポーツの振興
		K	文化・芸術活動の推進
		L	歴史と文化の伝承
4	学びたい教育のまちづくり (教育委員会活動の充実)	M	教育委員会活動の充実

(2) 各施策の内容

No	分 類			目 標
	大	中	小	
1	1	A	確かな学力の育成	「全国学力学習状況調査」で全ての小中学校で全国平均以上を目指す。小学校 6 年生（国語・算数）、中学校 3 年生（国語・数学） 中津市標準学力調査で、各教科・学年の C 層の児童・生徒の割合を減らす。 ICT 活用教育の推進を行う。 ○「新大分スタンダード（ICT の効果的な活用）」の徹底・充実による授業の質の向上 ○問題解決型学習の充実による言語能力の育成 ○小・中連携による、子どもが主体的に学ぶ授業の確立 ○各種学力調査分析・活用による授業改善・補充学習・家庭学習の充実

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○全国学力学習状況調査で全国平均以上の学校数 小学校 6 年生（国語と算数の合計が全国平均以上の学校数） 8 校/20 校 中学校 3 年生（国語と数学の合計が全国平均以上の学校数） 3 校/10 校 ○中津市標準学力調査で、各教科・学年の C 層状況 R4 年度（17%～57%）⇒R5 年度（23.2%～56.8%） ○ICT 活用教育の推進 授業において児童生徒がタブレット端末などの ICT を使った学習の実施率 週 3 回以上・・・90.4% 月 1 以下・・・0% 課題及び来年度に向けての方向性 学力調査結果は、全国平均以上の学校数については、小学校は 8 と、令和 4 年度の 11 校から減少している。中学校も令和 4 年度の 5 校から 3 校に減少している。全体として下降傾向であることから、授業改善と学びなおし週間、ICT（AI ドリル）を活用した補充学習・家庭学習の取り組みのサイクルの徹底を今後さらに図っていく必要がある。また、若手教職員が増えていることもあり、人材育成の取組を授業力向上、学力向上につなげていく必要がある。	3	B	3	C	学校教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
2	1	A	組織的ないじめ・不登校対策の推進	いじめの未然防止及び早期発見・早期対応を組織的に徹底し、組織的対応する。(目標値 いじめの解消率 85.0%) 不登校(不登校を理由に年間30日以上欠席)の児童生徒数の減少を目指す。 (目標値 1,000人当たりの不登校数 小学校9.0人 中学校39.0人) ○生徒指導の3機能・自己指導能力の育成を意識した教育活動の推進(「居場所」と「絆」を大切にした学級づくり) ○校内組織(いじめ・不登校防止対策委員会)の充実 ○「生徒指導提要」を活用したOJTや研修の充実による、学級・学年経営力、児童生徒指導力の向上 ○「人間関係づくりプログラム」の継続的な取組の推進・充実 ○SC(スクール・カウンセラー)、SSW(スクール・ソーシャル・ワーカー)、地域児童生徒支援コーディネーター、登校支援員、教育支援センター「ふれあい学級」、フリースクール等、関係機関との連携強化 ○不登校児童生徒への学習支援の拡充(ICTの活用、教育支援センター「ふれあい学級」との連携強化)

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○いじめの認知件数 小学校 R4 1,109 件 R5 1,118 件 (+9 件) 中学校 R4 108 件 R5 182 件 (+74 件) ○いじめの解消率（いじめのない状態が3か月間継続した状態） 小学校 R4 73.8% R5 81.0% (+7.2) 中学校 R4 66.7% R5 74.7% (+8.0) ○不登校（不登校を理由に年間30日以上欠席）の状況にある1,000人当たりの人数の推移 小学校 R4 9.8 人 R5 22.8 人 (+13.0 人) 中学校 R4 33.4 人 R5 56.8 人 (+23.4 人) 課題及び来年度に向けての方向性 ○自己指導能力の育成を意識した教育活動の推進及び自治活動の充実 ○校内組織（いじめ・不登校対策委員会）の充実 ○「人間関係づくりプログラム」や「情報モラル教育」を通して、いじめ・不登校の未然防止を図る。 ○「生徒指導提要」を活用したOJTや研修の充実による、学級・学年経営力、児童生徒指導力の向上 ○「人間関係づくりプログラム」の継続的な実施による未然防止の取組充実 ○SC（スクール・カウンセラー）、SSW（スクール・ソーシャル・ワーカー）、地域児童生徒支援コーディネーター、登校支援員、教育支援センター「ふれあい学級」、フリースクール等、関係機関との連携強化 ○ICTの活用、教育支援センター「ふれあい学級」との連携強化による不登校児童生徒への学習支援の拡充 ○市教委連絡票を活用した早期解決支援及び学期始めの支援の取組充実	3	B	3	B	学校教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
3	1	A	新しい時代に必要な総合力の育成	誰一人取り残さない基礎力の確実な定着。 バランスの取れた英語 4 技能の育成。 中学校でのスピーキングテストの実施。 ○小中の学びをつなぎ、伝え合う意欲と学力の向上を図る授業改善 ○ALT を活用した体験学習（英会話教室や APU 交流等）の充実 ○ふるさと学習や総合的な学習での地域探究学習の充実 ○CEFR-A1 レベル相当以上の取得

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○グローバル人材の育成 ・ 中学卒業時点での英検 3 級取得及び 3 級相当（CEFR-A1 程度）の英語力を有する生徒の割合 50.3% ・ ジュニア・グローバル・リーダー研修・わくわく英語ひろば・APU イングリッシュキャンプ等、体験活動の重視 ・ 総合的な学習における地域探究学習 ○小・中・高・短大連絡協議会を開催し情報交換・共有 課題及び来年度に向けての方向性 各取り組みの参加者をもっと増やせるよう、広報を充実させながら、次のような活動に取り組み、CEFR-A1 レベル相当以上の取得生徒の割合の増加を目指す。 ○小中の学びをつなぎ、伝え合う意欲と学力の向上を図る授業改善と基礎・基本（語彙力）を定着させる取り組みの充実 ○ジュニア・グローバル・リーダー研修・ALT との英会話教室や APU 交流等の充実 ○ふるさと学習や総合的な学習での地域探究学習の充実	4	B	4	B	学校教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
4	1	B	幼稚園教育 内容の充実	保幼小の連携と架け橋期カリキュラムの開発・検討。 幼保小架け橋カリキュラムの推進（幼児教育アドバイザーの活用）。 ○保幼小の連携の強化に向けた情報共有と架け橋期カリキュラムの開発・検討。 ○幼保小架け橋カリキュラムの実施に向けた職員の研修の充実。
5	1	C	安心安全な 学校施設の 計画的整備	令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、老朽化対策及び教育環境の改善に努めるため、学校施設の長寿命化改修、予防改修、体育館・屋外トイレの洋式化改修等を行う。 省エネルギー化及び教育環境の向上を図るため、屋内運動場照明のLED化改修を継続して実施する。 ○中津市学校施設長寿命化計画の計画的な実行と進捗管理を行う。 ○学校施設の長寿命化改修、予防改修、体育館・屋外トイレの洋式化改修を実施する。 （令和5年度屋外トイレ改修予定：和田小、沖代小、豊陽中） ○小・中学の校屋内運動場照明LED化改修を実施する。 （令和5年度実施予定：北部小、豊田小、秣小、樋田小、今津中、三光中、本耶馬溪中）

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○架け橋期プログラムの推進・「中津市版架け橋期カリキュラム(案)」の開発・検討。 ・架け橋期プログラムについて、幼児教育施設と小学校に周知 ○特別な支援を必要とする幼児に関する相談件数の増加(預かりの課題も含む) ○引き継ぎの必要性(小1プロブレム 令和5年度:3.0%) 課題及び来年度に向けての方向性 ○保幼小連携研修会における架け橋期カリキュラム作成に向けた職員研修の実施 ○幼保小架け橋期カリキュラムの開発のための会議・作業部会の開催 ○保幼小連携協議会における保幼小の連携の強化に向けた計画的な情報共有の場の設定	3	B	4	B	学校教育課
○和田小学校、沖代小学校の屋外トイレの改修を行い、豊陽中学校は屋外トイレの新築工事を実施した。 ○小学校4校、中学校3校の屋内運動場照明設備のLED化改修工事を実施した。 課題及び来年度に向けての方向性 ○国庫補助金等を最大限活用し、計画に沿った学校施設の長寿命化、予防改善、建替え等の整備を行う。 ○改修未実施の屋内運動場・武道場、屋外トイレの洋式化改修を計画的に実施する。(令和6年度は小楠小学校、真坂小学校、城北中学校の屋外トイレ、東中津中学校の屋内運動場のトイレを改修予定) ○教育環境向上を図るため、トイレの洋式化改修と並行して、学校施設の照明LED化改修を段階的に進めているが、改修率は令和5年度末で37%と低い水準となっている。校舎の長寿命化改良工事や大規模改造に併せてLED改修を行うほか、屋内運動場のLED化改修を今後も計画的に実施する。(令和6年度は南部小学校校舎(長寿命化改良)、屋内運動場(三保小学校、今津小学校、上津小学校、下郷小学校、三郷小学校、城北中学校、緑ヶ丘中学校)の8校を改修予定) ○計画策定時点から、さらに老朽化が進んでいる施設や設備を見落とさないように注視することや、自然災害による損壊なども視野に入れ、実情に応じた計画の見直しを随時行っていく必要がある。	5	A	5	A	教育総務課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
6	1	D	安全安心な給食提供のための環境整備及び地産地消の推進	新共同調理場の衛生管理について、HACCP（Hazard Analysis and Critical Control Point：危険分析・重点管理点）への対応、学校給食衛生管理基準への適合など、安全・安心の観点から基本構想・基本計画を作成する。計画にはアレルギー対応も入れる。民間活力導入の比較検討も行う。 JA や漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。 新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。 なかつ6次産業推奨品の活用に向け協議を行う。 ○基本構想・基本計画策定についてコンサルに委託しているが、業者任せにせず定期的な協議を行い、必要に応じて関係部署とも連携する。 ○地場産食材の利用拡大や生産者の育成等に向けて市関係部局とJA、漁協、生産者等の関係機関と協議を行う。 ○なかつ6次産業推奨品の活用に向け、市関係部局と連携し情報共有を行いながら、関係機関と各共同調理場との協議の場を設ける。 ○地場産食材を活用した新献立を継続して開発する。 ○地産地消献立を通じて、子どもたちに学習意欲や郷土関心を感じさせる工夫に努める。
7	2	E	生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティセンターの利用促進	公民館、コミュニティーセンターの利用促進。 自主サークル活動の育成。 公民館、コミュニティーセンター等、社会教育施設の整備。 ○社会教育主事が各公民館を巡回し、利用者増加に向けて講座生や館長と対策を練る。 ○住民ニーズの把握と新規学習内容の開拓による魅力ある学習内容の提供と利用の啓発。 ○サークルの活動、募集の支援及び新規サークルの立ち上げ支援。 ○耶馬溪公民館整備事業（公民館建設）。 ○その他老朽化した公民館の設備等の改修。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○中津市学校給食共同調理場整備基本構想・基本計画については、定期的な庁内会議を開催して安全安心なアレルギー対応給食の提供や地産地消の推進等、様々な観点から検討を重ねた。 ○JA のみではなく、農家と直接交渉を行い、新たな生産者の確保に向けた協議を行った。 ○なかつ 6 次産業推奨品の活用に向け、新たな商品の学校給食への活用について、市関係部局と現場の栄養士と協議を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 ○新共同調理場整備にむけて、民間活力導入可能性調査を行い、その結果を受けて、事業手法を決定する。 ○JA や漁協、市の関係各課等と連携を密にして地場産野菜等の品目と使用量の拡大を図る。 ○新たな生産者組織や後継者の育成等を関係機関と協議する。 ○なかつ 6 次産業推奨品の活用に向け協議を行う。	3	B	4	B	体育・給食課
○公民館、コミュニティーセンターの利用者 R4・・・136,104 人 R5・・・145,442 人 ○生涯学習センターまなびん館の利用者 R4・・・21,002 人 R5・・・23,568 人 ○耶馬溪コミュニティーセンターの建設 課題及び来年度に向けての方向性 ○各館長が公民館講座等の周知の方法（年間計画の配布等）について工夫できるように、館長会議の中に情報交換の場を設ける。 ○社会教育主事が各公民館を巡回し、利用者増加に向けて講座生や館長と話し合う。 ○社会教育指導員が、魅力ある講座や運営等の情報を交換するために、集まる機会を増やす。	3	B	3	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
8	2	E	学 習 機 会 の 拡 充 と 学 習 効 果 の 活 用	ウィズコロナ下での生涯学習を推進し、学びを通じた社会に貢献できる人材の育成や、「ふるさと学習」の推進を図る。 ○学んだ成果を活かせる場を地域学校共同活動を中心につくっていく。 ○子どもたちが安全、安心に参加でき、体験活動を重視した「ふるさと学習」の実施。 (福沢諭吉記念事業、子ども中津検定・ジュニア諭吉検定、ワンパク！たんけん中津、青少年地域活動事業、中津ジュニア歴史ガイド育成、公民館独自講座 等)
9	2	E	新 中 津 市 学 校 の 活 用	市民講座の開催（市民講座：3回、高校生向け講座：2回）、慶應義塾大学との共同研究の推進、歴史資料の保存活用・公開。 ○慶應義塾より講師を招聘し、市民講座（全3回）、高校生向け講座（全2回）を開催する。 ○不滅の福澤プロジェクトと連携して事業に取り組む。 ○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」を行う。 ○市民の利用促進に向け、各種媒体を活用した広報活動、学校、各種団体への周知等を行う。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○学校支援活動支援者数 R4・・・1,519人 R5・・・1,665人 ○放課後支援活動支援者数（放課後子ども教室、学びのススメ塾） R4・・・206人 R5・・・214人 ○ふるさと学習参加者（子ども中津検定、諭吉かるた等の青少年事業） R4・・・191人 R5・・・214人 課題及び来年度に向けての方向性 ○コミュニティ・スクールが市内全ての学校で始まることから、「地域ぐるみで子どもを育てる」気運を醸成するように学校運営協議会で、学校、家庭、地域で取組む目標について熟議する機会を作ってもらったり、学校支援活動では、学校のみ得をするのではなく、お互いがWINになるような取組を意識していき、地域の課題にも学校に考えてもらう。 ○「ふるさと学習」に関する周知を市報やポスター等で積極的に行い、新規参加者を増やしていく。同時に、参加者が満足するプログラムを検討する。	3	B	3	B	社会教育課
○慶應義塾等から講師を招聘し、市民講座（全3回）を開催した。テーマ及び開催日を歴史博物館企画展と連携することにより、企画展や講座の内容をより深掘りできるようにした。 ○不滅の福澤プロジェクトと連携して事業に取り組んだ。主な事業は以下のとおり。 ・慶應義塾 山内常任理事の監修により進めているまち歩きマップ製作に専門的知識に基づく助言を行った。 ・慶應義塾長と中津市長との対談や、磯田道史氏講演会の実施に際し、専門的知識に基づく助言やサポートを行った。 ・小幡記念図書館において、講師として講演「福澤諭吉の耶馬溪景観保護～その経緯と意義について～」を行った。 ・不滅の福澤プロジェクトの様々な事業の実施に際し、専門的知識に基づく助言や画像使用承認に係る手続等を行った。 ○慶應義塾大学との共同研究として「小幡篤次郎関係資料整理」「小幡著作整理作業」「渡辺家資料整理」を行うとともに、歴史博物館や福澤記念館と連携して企画展を行い、市民への還元に努めた。 ○市報なかつの「福翁辞典」コーナー（毎月15日号）など、市民が親しみやすい・分かりやすい情報発信に努めた。 ○令和5年度の利用者数は9,284人で前年度比106%となった。 課題及び来年度に向けての方向性 ○慶應義塾等より講師を招聘し、市民講座を開催する。また、中高生向け講座についても検討を進める。 ○不滅の福澤プロジェクトの集大成となる年度でもあり、各種事業に係る課と連携しながら取り組む。 ○偉人顕彰事業である小幡篤次郎・渡辺家の共同研究を引き続き進め、研究成果を展示や講座等で市民へ還元する。 ○人材育成・共同研究・学習交流・市民参加を一層進めるため、慶應義塾との連携を引き続き深める。	4	B	4	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
10	2	F	協育による 中津の子ども 未来創造 事業の充実	コミュニティ・スクール導入校における効果的なネットワーク会議との連携促進。 感染予防対策をとりながら、地域と学校の協働により、学校内外での子どもの育成を推進。 中津市 PTA 連合会と連携し「家庭教育ノススメ」を重要な目標の一つに位置付け、よりよい親子関係が築けるようにする。 ○コミュニティ・スクールを推進する中で、従来の校区ネットワーク会議との効果的な連携の方策を協育コーディネーターを介して把握し、学校運営協議会と校区ネットワーク会議の効果的な連携のしくみを構築していく。 ○支援者や学校、児童クラブと十分に連携を図り、子どもたちの安全、安心を確保しつつ、学校支援活動、学習支援活動、放課後や週末の体験活動の充実を図る。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○「協育」フォーラムを開催し、学校、学校運営協議会委員、社会教育委員と共に、CS 先進地の実践例（「地域とともにある学校」の実現に向けた学校運営：別府市立中部中学校 校長 佐藤裕一氏）を学ぶ。参加者は65人。 ○中津市 PTA 連合会は、耶馬溪中学校と上津小学校で保護者が「ほめまち中津の『家庭教育のススメ』」を使って授業を行う。 課題及び来年度に向けての方向性 ○社会教育課の職員も学校運営協議会に参加する。 ○PTA が見通しを持ち、取り組みの成果が感じられるような工夫をすることを通して、保護者が喜びを感じながら主体的にほめまち事業にかかわれるように支援する。	3	B	3	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
11	2	G	生涯学習センター事業の推進	コロナの感染予防対策も緩和され、予防、治療体制も整う中、ウィズコロナ、アフターコロナの時代における生涯学習を推進し、学ぶ意欲を持った市民に対して、個々の学びが自分の生きがいにつながるような施設づくりをすすめる。 学びから遠ざかっている市民、学ぶ場を知らない市民に対しては、積極的に情報発信を行い、学びを再開させる、スタートさせるきっかけをつくり、市民の学びを後押しする。 ○「まなびん講座」の受講者の確保のための魅力ある新規講座の開設。 ○中津市生涯学習大学の周知と新規受講者及びコロナ前受講者の確保。 ○サークル活動の活性化。 ○ニーズの把握による運営の見直し。 ○学習しやすい施設、設備の充実と日常の安全、安心な環境整備。
12	2	H	体験学習・遠隔講座等を通した未来を広げるキャリア教育の推進	職場訪問・職場体験の充実。 「中学生のハローワーク」の活用の推進。 遠隔講座等を通した未来を広げるキャリア教育の推進。 ICTを活用したキャリア教育の充実。 ○関係団体との積極的な連携 ○短期大学等との積極的な連携

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○まなびん講座では、R5に「たのしい手芸」と「ベジフル料理」の2講座を新しく開設。また生涯学習大学では、「エアロビ」と「リズムステップ」という運動系の内容を二つ新しく開設。 ○「学びを止めないまなびん館」を目指し、毎月広報誌を発行し、公民館を中心に掲示し多くの市民に触れるようにした。また、FBでその都度、まなびん館で行った事業の情報発信を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 受講者のニーズに応じた講座の開設と受講者が学ぶこと喜びを感じるスタッフの支援（まなびん刊などの広報誌を通じた広報やFBで活動の紹介）を行う。また、年度末に行われるまなびんフェスタや大学祭は、受講生の思いが生きる発表の場を作っていく。	4	B	3	B	社会教育課
○新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたこともあり、市内中学校の10校のうち、9校が職場体験を、1校が職場訪問を実施できた。 ○ダイハツ九州と連携し、小学校5年生を対象として工場見学の推進を図った。 （工場見学実施校 18校/21校 実施 ※規模の大きな学校は人数制限等の関係からリモート工場見学等実施） ○「中学生のハローワーク」については、コロナ禍で十分実施できなかったことから活用が進んでいない。 ○市の商工会・担当課と連携し、ものづくり体験学習を推進した。 （実施校 小学校9校） ○市内中学校 SOEM（中津市中学校生徒会意見交換会）を実施。（テーマ：特色ある生徒会活動をし、実践交流） 課題及び来年度に向けての方向性 中学校の職場体験学習の10中学校での全ての実施を行うために、職場体験学習の受け入れ先の拡大を目指す。 市の商工会・担当課・工科短大と連携したものづくり体験学習に参加する学校の増加を目指す。 教育課程研究協議会中学校特活部会による自主的な市内中学校での SOEM（中津市中学校生徒会意見交換会）の継続的な取り組みを目指す。	3	B	4	B	学校教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
13	2	H	多様な体験 の場の活用	子どもたちが、勤労の尊さや生産の喜びを体得し、自分の将来を考える時に選択の幅が広がるような学校以外での多様な体験の場の提供。 ○「職人フェスティバル」の実施。 ○少年少女発明クラブの充実。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○職人フェスティバルでは、R4 比で無料ブースを7つ増やし、多くの子どもたちが、ものづくりの体験と郷土の産業に触れる場を作った。 ○中津少年少女発明クラブでは、椅子作りから液体窒素を使った冷却実験まで、身近なものから創作する楽しさや科学の不思議さを学ぶ講座を月に1回提供した。毎回の講座では、自分が抱いた疑問に仮説を立て、検証していく過程を大切にしたい支援をスタッフが心がけ、夏休みの発明工夫展に向けた連続講座では、その集大成として、子どもたちが身の回りに困りごとから発明の種を探し、スタッフが解決の支援を行った。また、R5 から中学生の発明クラブを創設し、半年かけてラジオの仕組みを学び、作り上げた。 課題及び来年度に向けての方向性 ○職人フェスティバルの魅力を市報等で発信する。 ○中津少年少女発明クラブでは、子どもたちが試行錯誤し、課題解決的な学びができるようなスタッフ支援を行う。	4	B	3	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
14	2	I	図 書 館 機 能 の 充 実	安心して来館できる環境づくり。 市民ニーズに沿った図書館運営と利用率の向上。 社会教育課などと連携し、近隣文化施設との導線づくりを図る。 ○施設や設備の経年劣化箇所の修繕や更新を実施し、利用者の安全性や快適性を確保する。 ○小幡記念図書館に公衆無線環境を整備する。 ○図書館 DX を積極的に推進、また継続して実施する。 ○小幡記念図書館移転 30 周年記念イベントとして、親子連れを対象とした絵本作家による講演会等を実施する。 ○図書館講座や図書館コンサート、不滅の福澤プロジェクトを通して、読書活動を推進する。 ○中津市歴史博物館の特別展のテーマに関連した図書を展示し、施設の相互利用や読書の推進を図る。 ○エントランス壁面をアートスペースとして美術館に提供し、利用者が美術館に興味を持つきっかけをつくる。
15	2	I	読 書 活 動 の 推 進	家庭や地域、図書館における子ども読書活動の推進。 学校図書館やボランティアグループなどとの連携による読書活動の推進。 イベント等を通して本の魅力、読書の楽しさを伝える。 図書館の取組みの積極的な情報発信。 第3次子ども読書活動推進実施計画の策定。 ○おはなし会や赤ちゃん絵本事業を通じて乳幼児期から絵本に触れる機会を提供し、習慣づけることで読書活動を推進する。 ○学校司書や読み聞かせボランティアと連携を密にし、子どもの読書活動の推進を図る。 ○不滅の福澤プロジェクトや読書週間等の読書イベント・図書館講座等で関連図書を展示、紹介することにより読書活動を推進する。 ○HP や図書館だよりなどで、イベント情報、新刊案内など読書推進に関する情報発信を行う。 ○第2次計画の進捗や課題を踏まえて第3次計画を策定し、子どもの読書活動を推進する。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○図書館前庭やサブエントランスのタイル修繕、非常用照明バッテリーの交換、消防設備修繕など、利用者の安全確保のための修繕や更新を行った。また、利用者から要望の高かった図書館公衆無線環境を夏休み前に整備し、快適な学習の場を提供することができた。利用者の利便性向上のため、いつでもどこからでも申請やアンケート回答ができる電子申請等の拡充をおこなった。 ○絵本作家長谷川義史氏による記念講演会とワークショップ等、移転 30 周年記念事業は多くの参加者に満足していただけた。その他、図書館講座や不滅の福澤プロジェクト等においても、普段図書館を利用していない人に来館してもらうきっかけづくりができた。 ○博物館の特別展とのコラボ展示や美術館にエントランス壁面を提供するなど、近隣文化施設との連携や導線づくりを行った。 課題及び来年度に向けての方向性 ○現在の場所に移転開館して 30 年が経過し、施設の老朽化が目立つ。利用者が安心安全に、また快適に過ごせるよう図書館施設や設備を計画的に修繕、更新し長寿命化を図る必要がある。 ○利用者の利便性の向上を図り、利用者の満足度を高める。どの世代からも図書館を利用したいと思われる取組みを行う必要がある。	4	B	4	B	小幡記念図書館
○新型コロナにより休止していたボランティアによる読み聞かせ等（おはなし会、あかちゃんタイム、赤ちゃんおはなし会、赤ちゃん絵本の読み聞かせ事業等）を再開するにあたり、ボランティアの情報交換会等を開催し手順の確認やボランティア同士の交流を行うことで、混乱することなくスムーズに運営することができた。学校司書との情報交換会や合同研修会も継続して実施できた。 ○第 2 次子ども読書活動推進実施計画の成果と課題を踏まえ、また児童生徒、保護者、教職員へのアンケートも実施して実態を把握し、第 3 次計画を策定することができた。 ○耶馬溪図書館移転のため除籍した資料をこれまで配布していなかった団体等に配布し、子どもの読書活動の推進を図った。紙芝居⇒読み聞かせグループ、多くの絵本⇒本耶馬溪、耶馬溪、山国地区の保育所やこども園（中津、三光地区は R6 に実施予定） 課題及び来年度に向けての方向性 ○読書活動推進のため様々な事業やイベント等を実施しているが、アンケート結果から周知が行き届いていないことがわかった。これまでの市報や市立図書館ホームページ、中津市ホームページ、X（旧 Twitter）に加え、児童生徒対象の事業等については学校教育課と連携し保護者と学校の連絡アプリ「すぐーる」で周知をはかるなど、対象に適した媒体を検討する。 ○第 3 次子ども読書活動推進実施計画策定にあたって実施したアンケートでの生の声を、今後の図書館運営に反映できるか検討していく。	4	B	4	B	小幡記念図書館

No	分 類			目 標
	大	中	小	
16	3	J	生涯スポーツの推進	大人から子供まで加入することができ、色々なスポーツを選べる総合型地域スポーツクラブの創設に向けて取り組む。 様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れあえる機会を増やす。 定住自立圏域住民のスポーツ振興を図る。 ○5月の最終水曜日を「健康づくりの日」として施設の開放を行い、市民の健康づくりをサポートする。 ○市内の体育施設を利用して、様々なスポーツ大会や各カテゴリーの大会を誘致し、誰もが身近にスポーツと接する機会を増やす。 ○定住自立圏域住民を含め広く誰もが参加できるスポーツイベントを開催する。
17	3	J	競技力向上及びジュニアの育成	市スポーツ協会や競技団体、学校、地域、企業などが連携し、人材の育成・強化に努める。 ○競技力の向上及び優秀な選手やジュニアの育成のために、優れた指導者の確保や育成が必要であり、全ての競技団体に「公認スポーツ指導者」や「スタートコーチ」、「コーチングアシスタント」等の資格取得を支援・推進していく。
18	3	J	市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用	市民のスポーツニーズに対応した施設の整備を行うことで、施設利用満足度を高め、多機能多目的な施設利用に柔軟に対応し、利便性の向上を図る。 ○誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを計画して行く。 ○市民要望の高い種目や競技に対応する施設整備及び、多機能多目的な施設利用対してのルール作り等を行っていく。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
八面山平和マラソン大会（4月）、諭吉の里「なかつ」ハーフマラソン・ウォーキング大会（11月）、福岡ソフトバンクホークス甲斐拓也選手自主トレ及び野球教室（1月）、中津市民講座（2月）、慶應大学体育会野球部合宿及び野球教室（2月）を開催し、スポーツに触れ合う機会の創出が図れた。 課題及び来年度に向けての方向性 今後も様々なスポーツイベントを開催し、スポーツに触れ合える機会を増やす。	3	B	3	B	体育・給食課
スポーツ少年団の説明会において、指導者資格の説明を行い、制度への理解と資格取得、資格更新の手続き等を促した。 8月には市独自のスポーツ少年団指導者・スタッフ研修会を実施し、子どもたちにとってよりよいスポーツ環境の整備が図れた。 課題及び来年度に向けての方向性 ○競技団体へは指導者資格の取得やスポーツ少年団への加入を推進していく。 ○指導者や保護者、関係者向けの指導に関する講習会を定期的の実施し、研修の場を設ける。	3	B	3	B	体育・給食課
利用者ニーズを踏まえ、施設整備や施設の利便性向上のための改修や修繕を実施。 ダイハツ九州アリーナの床改修及び照明LED化改修工事を行った。 ふれあいスポーツセンタートイレ洋式化改修工事を行った。 やまくにスポーツパーク体育館多目的トイレ改修工事を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 ○今後も誰もが、どこでも、安全に、安心してスポーツに親しむことのできる環境づくりを行っていく。 ○市民のスポーツニーズに沿った市の振興に繋がるような施設にすべく整備を行なっていく。 ○将来の財政負担や利用見込み等総合的要素を勘案した施設となるよう検討していく。	3	B	3	B	体育・給食課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
19	3	J	令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）受け入れ準備	令和6年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）に向けた準備・施設改修を行う。 ○インターハイを契機にダイハツ九州アリーナの床改修を行う。床の改修に合わせて照明のLED化改修工事も併せて行う。 ○令和5年度インターハイ北海道視察予定。 ○令和5年度全国高校総体中津市実行員会立ち上げ。 ○ダイハツ九州アリーナ・中津体育センター床金具設置。
20	3	K	文化施設の充実	市民生活の質を高め、楽しめる文化的環境づくりを推進する、また、文化芸術活動の場としての施設の整備・充実に努める。 ○子どもから高齢者まで全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として文化施設を活用できるよう、施設の充実、利用機会の拡充に努める。 ○建設後44年経過（昭和54年竣工）している中津文化会館について、市民が安全にかつ快適に施設を利用できるよう、老朽箇所等について必要な改修等を行う。また、将来的な建て替えに向けた議論を進めるため、情報収集等を行う。 【R5年度中津文化会館整備予定】 文化会館舞台幕更新、スタジオ・音楽練習室の照明器具LED化改修工事

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○ダイハツ九州アリーナの床改修及び照明 LED 化改修工事を行った。 ○令和 5 年度インターハイ北海道視察を行った。 ○令和 5 年度全国高校総体中津市実行員会を立ち上げた。 ○ダイハツ九州アリーナ・中津体育センター床金具設置を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 令和 6 年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）の開催に向け、関係団体と連携・協働を図りながら、効率的な大会運営を目指す。 全国トップレベルの選手たちのレベルの高いプレーを観戦できることによる各競技種目の競技力向上や裾野の拡大、スポーツへの市民の関心向上を図る。	—	—	3	B	体育・給食課
中津文化会館及びリル・ドリームについて、必要な設備修繕を行うとともに、予定していた文化会館の舞台幕更新・照明器具の LED 化改修工事を行い、幅広い年齢層の利用者が快適に使用できるよう整備に努めた。 令和 6 年度から 3 年間の指定管理者として、NPO 法人中津文化協会に選定した。 文化会館の将来的な方針決定に向けた議論を進めるため、各市の文化会館・ホールの状況や建替え・長寿命化に係る費用の試算を行うなど情報収集を行った。 課題及び来年度に向けての方向性 全ての市民が、鑑賞や自らの発表の場として文化施設を活用できるよう、施設の充実、利用機会の拡充に努める。 老朽化する施設の安全性を維持するために、整備の必要性や優先度を十分に検討し計画的に修繕・更新の対応をしていく。 また、文化会館の将来的な方針（長寿命化・建替え）決定に向けた議論を進めるため、庁内組織の立ち上げや必要な情報収集等を引き続き行う。	4	B	4	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
21	3	K	文化芸術活動の推進	国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。また、東アジア文化都市事業のレガシーを継承し、多様な文化交流事業に取り組んでいく。 各施設においては、多様な文化・芸術活動を展開しているが、より多くの市民が、質の高い芸術文化に親しむ場、また自らの活動の発表の場としても利用できるよう、情報の発信と活動の充実を図る。 ○文化会館、リル・ドリームについては昨年度と同様に、指定管理者に「市民ニーズの把握とイベントの検証による事業の発展」「収益率と使用率の向上」「職員の育成、組織力強化」「安心・元気・未来プランの推進」を条件に附しており、市も協力して取り組む。 ○木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、中津市歴史博物館と連携し合同企画展等を実施するなど、事業のさらなる充実強化を図る。 ○市報やHP、ラジオ等、あらゆる媒体を利用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。
22	3	L	文化財調査の充実と保護の促進	有形・無形・埋蔵文化財の調査・実態把握につとめる。 文化財保護の活動に市民の巻き込みをはかる。 歴史遺産を未来へ伝えるため、市が目指す将来的なビジョンや具体的な事業等の実施計画を定める「文化財保存地域計画」策定作業を進める。 ○文化財の調査・研究を行い、調査成果を博物館企画展や調査報告書の刊行に活かす。 ○学校との連携や博物館活動、史跡整備等の機会を活かして、文化財保護精神の醸成を促す活動を行う。 ○「文化財保存活用地域計画」の令和6年度刊行を目指し、令和5年度末までに計画書の原稿をとりまとめる。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
文化会館、リル・ドリームにおいては、指定管理者が自主事業の実施回数を増やすこと等により、前年度と比較して利用者数を増やすことができた。 木村記念美術館においては、「版画のある空間－武田由平をめぐって－」などの美術企画展を3回実施するほか、ワークショップや学校への出前授業を行った。特に「版画のある空間－武田由平をめぐって－」では、市内カフェ等と連携してサテライト会場展示を行った。また、歴史博物館で開催した「長谷川義史絵本原画展」では、小幡記念図書館と連携して講演会を実施した。 市報・HP・Twitterによる広報活動により、市内外からの誘客につなげた。 課題及び来年度に向けての方向性 国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを行うとともに、文化芸術団体との連携を強化する。 木村記念美術館については、これまでの取り組みを継続するとともに、歴史博物館や美術団体との連携等により、事業のさらなる充実強化を図る。 市報やHP、ラジオ等、あらゆる媒体を利用して、中津市の文化・芸術活動の情報発信を行う。	4	B	3	B	社会教育課
○有形・無形・埋蔵文化財等の調査をすすめ、調査成果をもとに、白髭神社大名行列を無形民俗文化財に、神楽面15点を有形民俗文化財に、法垣遺跡出土品を8点を有形文化財に指定した。また、調査・研究の成果を活かした企画展等多数実施した。調査報告書等は7冊を刊行した。 ○市内外の学校と連携し、博物館の見学の受け入れ等を行った。長者屋敷官衙遺跡は園名を公募、地元小学校の児童が総合学習の時間に学習・考案した「なかつ長者伝説公園」の園名が決定し、史跡公園として一般開放した。周辺調査説明会では、市内外より約120人の参加があった。また、沖代条里の土水路に生息する希少生物調査や縄文体験学習に小学生たちの参加を促した他、古代ゾーンを歩きながら学習する「ブラコダイ」も開催した。 ○地域計画は委員会やワーキング部会を開催し、原稿が概ね整った。 課題及び来年度に向けての方向性 文化財の適切な保存や魅力的な活用は、全て地道な調査の積み重ねがあってこそである。今後も各分野の調査研究、及び文化財の保後に取り組むとともに、文化財保護精神の醸成を促す活動を行う。地域計画は、今後の中津市の文化財行政の方向付けをする大切なものであり、令和6年度の完成を目指す。	3	B	4	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
23	3	L	文化財整備・活用の推進	各種文化財の整備活用を通して地域への誇りと愛着を育てる。また、文化財の公開・活用・情報発信に努め、文化財の価値の周知をはかる。 ○神尾家住宅の修理事業を実施し、可能なものについては情報公開・経過の公開を行う。 ○令和6年の「福沢諭吉旧居保存活用計画」策定に向け、令和5年度は史跡の測量図化、策定委員会を設置・開催する。 ○長者屋敷官衙遺跡の整備を進めるとともに、市民に愛される史跡公園を目指してⅡ期工事の整備方針の検討を行う。 ○慶應義塾大学と連携した中津の偉人の調査をはじめ、各分野の調査研究の成果を、刊行物や展示、講座等を通じて、市民に還元する。 ○SNS やメディアを積極的に活用する。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○国の重要文化財神尾家住宅修理事業は修復が予定どおり終了した。地元小学校の児童が社会見学に訪れ、神尾家の囲炉裏を焚くなどの体験を行った。 ○福沢諭吉旧居保存活用計画の策定に向け、保存活用計画策定委員会を2回開催、史跡範囲測量図作成や植栽調査を実施した。 ○長者屋敷官衙遺跡Ⅱ期工事については、周辺遺跡を含む「古代ゾーン」の拠点として、遺跡の価値を活かすための整備の方針を検討した。また、周辺調査を継続実施し、令和4年度に発見された大型建物の全貌を明らかにすることができた。 ○企画展示に関連したギャラリートーク、講演会、市民講座の開催や、長者屋敷官衙遺跡周辺調査説明会など、調査研究の成果を活かした企画を多数実施し、多くの市民が来館、参加した。 ○企画展やイベントについて SNS やメディアを積極的に活用し、来館者増への取り組みを行った。 課題及び来年度に向けての方向性 長者屋敷官衙遺跡は遺跡の価値を活かすためのⅡ期整備計画の具体案を作成し、国へ提出する。福澤諭吉旧居は、将来を見越した保存活用計画の令和6年度完成を目指す。国指定文化財の管理者として、国県と連携した着実な事業推進を行う。	4	B	4	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
24	3	L	博 物 館 を 核 と し た 中 津 市 の 魅 力 発 信	調査成果を基にした魅力的な企画展を開催するとともに、観光部局との連携を強化する。また、民間が運営に参加する参加型なかはくを目指す。 市内各館と連携し、魅力を発信する。 ○「不滅の福沢プロジェクト」や「三津同盟事業」を推進する企画展を開催する。 ○学校教育課との連携強化。 ○観光部局と連携して、情報発信や「三津同盟」事業を推進する。 ○民間が主催者側にたつ企画開催を推進する。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○不滅の福澤プロジェクト事業、三津同盟事業、新中津市学校事業、図書館事業と連携し、年間6回の企画展を開催した。企画展に関連したギャラリートーク、講演会、市民講座の開催など、調査成果を基にした取り組みも多数実施した。 ○学校教育課と連携し、社会見学やまちなみ歴史探検等の博物館の見学、出前授業、体験学習、職場体験等の受け入れを行った。 ○三津同盟事業は津山市でのシンポジウム、3市町で巡回展「文明開化と明六社」を開催した。観光部局でも互いの市町のイベントに出展するなど、交流が生まれている。 ○お茶会、サンドアートのワークショップ、Xmas マルシェ、市民サークルの絵画作品展、お祭り展示など、市民主催の事業を開催した。 課題及び来年度に向けての方向性 令和6年度は博物館が令和元年11月に開館してから、5周年を迎えるため、記念事業を開催する。「不滅の福澤プロジェクト」や「三津同盟事業」をすすめながら、市内各館を含めた博物館活動のさらなる魅力アップに取り組む。風物館は「日本遺産ガイダンス施設・道の駅の観光拠点施設」としての機能強化に取り組みたい。	4	B	4	B	社会教育課

No	分 類			目 標
	大	中	小	
25	4	M	教育委員会の機能強化	総合教育会議等を通じて市長と教育委員会が緊密な連携をとり、両者が教育行政の方向性を共有し、より一層地域住民の意向を反映した教育行政の推進を図っており、引き続き市長部局との連携強化を行う。また、教育現場の実態把握と関係機関との意見交換、教育委員の視察、研修機会の拡充を図る。 ○総合教育会議など、市長と教育委員会が連携を図れる会議等を開催する。 ○学校現場を訪問するなどして、県等関係機関と教育行政についての意見交換を行う。 ○先進地視察など教育委員の研修機会の拡充に努め教育行政について研鑽を重ねる。

達成状況	R4		R5		所管課
	自己評価	総合評価	自己評価	総合評価	
○令和6年3月28日に総合教育会議を開催し、協議を行った。 ○令和5年7月6日～12日にかけて4日間（前期）、令和5年10月10日から10月30日にかけて9日間（後期）の日程で各小・中学校、学校支援センター及び幼稚園への訪問を実施した。 課題及び来年度に向けての方向性 ○総合教育会議では、教育現場における喫緊の課題や、取り組みの成果など、様々な議題について協議や情報共有を行っていく。市長部局と教育委員会が共通の認識を持てるように連携を図ることで、課題に対して迅速な対応が出来る体制を構築していく。 ○今後も学校訪問を実施し、教育現場を取り巻く問題や課題を認識することで、教育行政の推進につなげていく。	4	B	4	B	教育総務課

Ⅲ 学識経験を有する者の知見

大分大学教育学部 教授 住岡 敏弘

まず、報告書から読み取れる限りにおいて、各施策の達成状況について所見を述べます。

1. 学びたい教育のまちづくり（学校教育）

A 小・中学校教育の充実

・確かな学力の育成

全国学力・学習状況調査において、すべての小中学校で全国平均以上を目指すという目標に対して、小学校は令和4年度の11校から8校に減少、中学校も5校から3校に減少という結果になっています。特に小学校は、令和2年度からの推移を見たときに減少傾向が明らかで、中学校についても令和3年度以降、徐々に減少している傾向がみてとれます。また、中津市標準学力調査において、低学力層の割合が増加し、学力の2極化が進んでいます。今後も継続的に低学力層の学力の底上げの取り組みを進めていくことが求められます。授業におけるICTの活用も積極的に進められており、学校単位での授業改善の取り組みを進め、確かな学力の育成につながるよう期待しています。

・組織的ないじめ・不登校対策の推進

いじめの認知件数は、1,300件に達し、いじめに対する認知が積極的に進められ、いじめの解消率も80%を超え、令和4年度よりも向上し、目標の85%にもかなり近づいており、いじめ対策がかなり効果をあげていることがうかがわれます。一方で、不登校の児童生徒1,000人当たりの不登校数については、小学校、中学校とも令和4年度よりも増加し、特に小学校は令和4年度の9.8人から令和5年度は22.8人に大きく増加しています。コロナ禍のなかで、他者とのかわりを苦手とする子どもが増えていく一方で、不登校の原因は多様化複合化しています。校内指導体制を充実するとともに、人間関係プログラムなどを取り入れて、不登校の未然予防にも取り組んでいただきたいと思います。

・新しい時代に必要な総合力の育成

グローバル人材の育成について、中学校卒業時点で英検3級取得および3級相当の英語力を有する生徒の割合が50.3%と目標の50%が達成され、着実な進捗がみられています。グローバル人材の育成に向けて、英検塾のオンライン講座が新設され、APUイングリッシュキャンプも再開され、中学生の英会話、わくわく英語ひろば、新中津市学校での「英語で学ぼう 論吉学」など多様な学習機会が用意され、参加した学習者の満足度も高くなっています。こうした取組が、中学生の英語力の底上げにつながっているように思われます。こうした取組をさらに広げ、グローバル人材の育成を拡充してほしいと思います。

B 幼児教育の充実

・幼稚園教育内容の充実

保幼小の連携の強化に向けて、関係者間で情報共有がはかられ、架け橋期カリキュラムの実施に向けては、「中津市版架け橋期カリキュラム（案）」が開発、検討されています。今後は、関係者間での情報共有や円滑な実施に向けた研修を進めていただきたいと思います。

C 安心安全な学校施設の計画的整備促進

・安心安全な学校施設の計画的整備

令和3年3月に策定した中津市学校施設長寿命化計画の方針に則り、学校施設の長寿命化改修、予防改修、体育館・屋外トイレの洋式化改修が実施され、教育環境の改善及び省エネルギー化促進のため、屋内運動場のLED化改修工事も着実に実施されています。今後も計画的に、安心安全な学校施設の計画的な整備が進められることを期待します。

D 学校給食の充実

・安全・安心な給食提供のための環境整備及び地産地消の推進

安全・安心な給食の提供のための環境整備に向けて、共同調理場整備基本構想・基本計画について検討し、そのなかで、安全安心なアレルギー対応給食の提供や地産地消の推進等、地元食材を活用した安心安全な給食の実に向けて努力されている様子がみてとれます。ふるさと給食の日は、食を通して地域社会の理解を促す活動として注目すべき活動といえます。今後も、なかつ6次産業推奨品の活用を進めるとともに、地元食材の調達に向けて多様な団体や農家などと交渉を進めていただきたいと思います。

2. 学びたい教育のまちづくり（生涯学習・産業教育の推進）

A 生涯学習の推進

・生涯学習推進基盤の整備及び公民館、コミュニティセンターの利用促進

公民館、コミュニティセンターの利用者数は、令和4年度の136,104人から令和5年度の145,442人へと1万人弱増加しています。令和5年度には、新型コロナの感染症法の分類が第5類に位置付けられるなか、利用促進の取組みが一定の効果を挙げていることがみてとれます。今後も、住民の思いやニーズに寄り添いながら、魅力ある講座の設置や利用拡大に向けての広報活動の強化などに取り組んでいただきたいと思います。

・学習機会の拡充と学習効果の活用

学校支援活動支援者数も前年に比べて着実に増加し、アフターコロナのなかで、市民が学んだ成果を学校との協働活動の中で生かしていく流れがしっかりと広がっている傾向がみてとれます。また、ふるさと学習についても、子ども中津検定、論吉かるた等、多様な学習機会が設けられており、参加者の満足度も高く、リピーターも多数にのぼっています。今後も、ふるさと学習の一層の充実をはかっていただき、ふるさとに愛着をもち、その良さを発信できる人材の育成に努めていただきたいと思います。

・新中津市学校の活用

慶應義塾との連携による市民講座の開催や共同研究の実施、さらにその成果を企画展の形で市民に還元しているなど、新中津市学校のコンセプトである「学生や社会人が学習・交流に集う場」「慶應義塾との共同研究・連携事業をすすめる場」「中津市学校の影響を受け継ぎ人材育成につなげる場」として市内の文教施設の中心的役割を果たしているといえます。今後も慶應義塾との共同研究を進め、それを広く市民に還元するとともに、学修交流施設として、広く市民の学びの交流を促進する場として機能強化に努めていただきたいと思います。

B 教育の協働の推進

・協育による中津の子ども未来創造事業の充実

青少年の健全育成において、学校、家庭、地域住民の総参加で子育てを進める、教育の協働体制づくりが積極的に進められています。そのなかで、学校運営協議会と校区ネットワーク会議の効果的な連携のしくみの構築が模索されており、「協育」フォーラムの開催、「ほめまち中津の『家庭教育のススメ』」の保護者による授業などにより着実にその体制づくりが整備されているといえます。

C 生涯学習センター「まなびん館」の充実

・生涯学習センター事業の推進

令和5年度には「まなびん講座」では、「たのしい手芸」と「ベジフル料理」の2講座が新たに開設され。また「生涯学習大学」では、「エアロビ」と「リズムステップ」という運動系の内容が開設されました。コロナ禍の下で学びから遠ざかっていた市民、学ぶ場を知らない市民に対して積極的に情報発信を行い、学びを再開またはスタートさせるきっかけをつくり、市民の学びを後押ししようとしていることがうかがえます。今後も市民のニーズにこたえる学習機会の提供と広報に努めていきたいと思っています。

D. 産業教育の推進

・体験学習・遠隔講座等を通じた未来を広げるキャリア教育の推進

令和4年度まで新型コロナウイルス感染の影響で、職場訪問が十分実施できませんでしたが、令和5年度は新型コロナウイルス感染症が第5類に移行されたこともあり、市内中学校の10校のうち、9校が職場体験を、1校の職場訪問が実施されるなど、再び、体験学習を通じたキャリア教育を再開できたことは高く評価されます。さらに、新たに市の商工会・担当課・工科短大とも連携し、ものづくり体験学習を推進し、小学校9校で実施するなど、キャリア教育を推進することができた点も評価できます。工場見学については、大規模校についてはリモートで行うなど、感染予防の観点からICTを活用した新たな取り組みもみられます。来年度に向けては、「中学生のハローワーク」の再開と活用を進めていただくとともに、自立した生徒の育成に向けた教育活動を進めていただきたいと思います。

・多様な体験の場の活用

「職人フェスティバル」は、子どもたちに実際に仕事やものづくりを体験させることにより、世の中には様々な職業があることを知らせ、仕事に対する興味関心を深め、正しい職業観を身につけることができる学校外の貴重な学習の場といえます。第13回目の令和5年度は、無料ブースを増やし、多くの子どもたちが体験できるように努力したことは大いに評価できます。中津少年少女発明クラブも、身近なものから創作する楽しさや科学の不思議さを学ぶ講座を通じて、子ども自身が抱いた疑問に仮説を立て、検証していく過程を実感させ、ものづくりの体験と郷土の産業に触れる場として貴重な場といえます。特に今回は、発明工夫展で、県知事賞1人、県教育長賞1人、発明協会アイデア賞1人が受賞するなど子ども自身の達成感や自己実現につながったのではないかと思います。ただ両者とも前年比で参加者が若干減少しているので、広報をさらに強化し、周知を図っていただきたいと思います。

・図書館機能の充実

図書館は、地域住民の情報拠点ですが、施設の老朽化が指摘されています。長寿命化に向けて計画的な修繕や更新が進められる必要があります。また、令和5年度はWI・FI環境の整備、電子申

請等の拡充などが行われました。今後、利用者の利便性を高めるためにさらなる DX 化を進めていていただきたいと思います。ソフト面では、記念講演や不滅の福澤プロジェクト、博物館とのコラボ企画など特色のある企画がなされ、利用者の拡大に寄与していると思われます。今後も地域の特性を生かしたこうした取組みが拡充されることを期待します。

・読書活動の推進

令和 5 年度から再開したボランティアによる読み聞かせ等は、ボランティアの情報交換会等が開催され、コロナ禍後、混乱なくスムーズに運営を進めることができたことが成果として挙げられます。毎月の企画展示においても、中津市歴史博物館とのコラボ企画を開催するなど、利用者の興味を引き出そうとする努力がみられます。第 3 次子ども読書活動推進実施計画が策定されたので、それを踏まえてさらなる読書活動の充実に努めていただきたいと思います。

3. 学びたい教育のまちづくり（文化・スポーツの推進）

A スポーツの振興

・生涯スポーツの推進

コロナ禍のなかスポーツに触れる機会が少なくなるなか、幅広い世代の市民にその機会を提供していくことは重要です。その点で、「健康づくりの日」の施設開放は、幅広い市民にスポーツ参加のきっかけ作りにつながる取組みとして注目されます。また、4 月の八面山平和マラソン大会、11 月の諭吉の里「なかつ」ハーフマラソン・ウォーキング大会、1 月の福岡ソフトバンクホークス甲斐拓也選手自主トレ及び野球教室、2 月の中津市民講座、慶應大学体育会野球部合宿及び野球教室が開催され、中津らしさを生かしつつ年間を通じて市民がスポーツに触れるような機会が設けられています。今後、多様なイベント開催を通じて、より幅広い市民にスポーツに触れる機会を設けていただきたいと思います。

・競技力向上及びジュニアの育成

優れた指導者の確保や育成のために、スポーツ少年団の説明会において「公認スポーツ指導者」や「スタートコーチ」、「コーチングアシスタント」等の資格取得や更新の手続きを促し、8 月には市独自のスポーツ少年団指導者・スタッフ研修会を実施し、子どもたちにとってよりよいスポーツ環境の整備を図るような取組みが実施されています。今後も指導者や保護者、関係者向けの研修の場の充実に努めていただきたいと思います。

・市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用

市民ニーズに応えるスポーツ施設の整備や多機能多目的な施設利用に向けて、ダイハツ九州アリーナやふれあいスポーツセンター、やまくにスポーツパーク体育館の施設改修が行われ、利用者が安心・安全にスポーツを楽しむことができるような環境整備が進められています。今後も、利用者のニーズに応えるような施設整備を計画的に進めていただきたいと思います。

・令和 6 年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）受け入れ準備

令和 6 年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）のバレーボール競技の会場にダイハツ九州アリーナ、中津体育センターが選定されていることから、その準備として、インターハイ北海道視察を行うとともに、全国高校総体中津市実行員会を立ち上げ、会場の床改修及び LED 改修工事などが行わ

れるなど、着々と準備が進められています。高校生が日頃の成果を発揮できるよう、円滑な実施がなされることを期待します。

B. 文化・芸術活動の推進

・文化施設の充実

施設の老朽化が進行する中、市民が安全かつ快適に文化活動が行えるように、優先順位を決めて必要な整備が実施されています。令和5年度は、中津文化会館及びリル・ドリーム設備修繕が実施され、文化会館の舞台幕更新・照明器具のLED化工事を行い、幅広い年齢層の利用者が快適に使用できるよう整備が進められています。なお、令和6年度から3年間の指定管理者として、NPO法人中津文化協会が選定されています。今後は、指定管理者とともに将来的な方針決定がなされ、文化・芸術活動の充実化に向けた施設整備が実施されることを期待しています。

・文化芸術活動の推進

国民文化祭で醸成した文化振興への機運を活かしながら、市民ニーズを反映した文化芸術の取り組みを進めるという方針のもとに、文化会館、リル・ドリームでは、指定管理者が自主事業の実施回数を増やすこと等により、前年度と比較して利用者数が増加しています。木村記念美術館においては、美術企画展を3回実施するほか、ワークショップや学校への出前授業を行うなど、積極的に企画が実施されています。さらに、同館では、市内カフェ等と連携したサテライト会場展示、歴史博物館で開催した「長谷川義史絵本原画展」における小幡記念図書館と連携するなど市内の各機関等との連携がなされ、注目されます。市報・HP・Twitterによる広報活動も強化され、来年度以降、利用者数がコロナ前の水準に回復することが期待されます。

C. 歴史と文化の伝承

・文化財調査の充実と保護の促進

調査・研究の成果を活かした企画展が多数実施されています。また市内外の学校との連携、博物館の見学の受け入れ等も積極的に行われています。長者屋敷官衙遺跡の園名が公募され、地元の小学生が総合的な学習の時間に学習・考案した「なかつ長者伝説公園」に決定されました。中津市の文化財を活かしたまちづくりを地域社会総がかりで推進していく上で、象徴となる注目すべき取り組みといえましょう。「中津市文化財保存活用地域計画」の実施に向けて、準備が着実に進められています。

・文化財整備・活用の推進

令和5年度には、国の重要文化財である神尾家住宅の修理事業を計画通り修復終了しています。地元の小学生が社会見学に訪れ、地域の文化財の価値が実感されたのではないかと思います。また、福沢諭吉旧居保存活用計画の策定に向けての準備が進められ、長者屋敷官衙遺跡Ⅱ期工事については、周辺遺跡を含む「古代ゾーン」の拠点として、遺跡の価値を活かすための整備の方針が検討され、周辺調査が継続実施されています。企画展示に関連したギャラリートーク、講演会、市民講座の開催や、長者屋敷官衙遺跡周辺調査説明会など、調査研究の成果を活かした企画が多数実施され、SNSや各種メディアを通じた広報にも力が入れられ、多くの市民の来館、参加につながっています。文化財に親しむ機会を創出され、文化財を中津市のブランド力アップにつなげる取り組みがなされているといえます。

・博物館を核とした中津市の魅力発信

7月2日には入館者10万人を達成したことは、素晴らしいことです。この背景には、不滅の福澤プロジェクト事業、三津同盟事業、新中津市学校事業、図書館事業と連携し、年間6回もの企画展が開催されるとともに、企画展に関連したギャラリートーク、講演会、市民講座の開催など、調査成果を基にした取り組みが実施され、さらに、学校教育課と連携し、社会見学や博物館の見学、出前授業、体験学習、職場体験等の受け入れが実施されてきたことが大きく寄与していると思われます。お茶会、サンドアートのワークショップ、Xmas マルシェ、市民サークルの絵画作品展、お祭り展示など、市民主催の事業が多数開催されています。今後も民間が運営に参加する「参加型なかはく」の理念を大切に運営がなされることを期待します。

4. 学びたい教育のまちづくり（教育委員会活動の充実）

A. 教育委員会活動の充実

・教育委員会の機能強化

総合教育会議において①中津市教育大綱の改訂について、②小中学校における防災教育といった教育行政において重要な事項について協議・情報共有が行われ、市長と教育委員会が緊密な連携をとり、両者が教育行政の方向性を共有し、より一層地域住民の意向を反映した教育行政の推進が図られています。また、教育委員及び教育長、教育次長が小・中学校及び幼稚園に訪問し、現状や各校が抱える課題を教育委員会として把握する取り組みがなされています。

各施策の評価を踏まえて、総合知見を述べたいと思います。

令和5年度は、5月に新型コロナウイルスの分類が5類に移行し、感染対策による行動制限がかなり緩和されました。市民の学修意欲の高まりと学習活動の活発化が進んでいくなかで、かなりの事業が計画通りに実施され、活動や利用者数がコロナ禍以前の水準に近付いたことは大きな成果といえましょう。

そのなかで課題として挙げられるのは、児童生徒の学力・学習の状況です。すべての小中学校で全国平均以上を目指すという目標に対して、それを達成している学校が小中学校ともに減少傾向にあります。また、中津市標準学力調査結果でも明らかなように、学力の2極化も進んでいます。低学力層の学力の底上げが喫緊の課題といえます。今後は全国学力・学習状況調査結果ならびに中津市標準学力調査結果の詳細な分析とその結果を活用した取組を進めていくことが不可欠です。特に、低学力層の児童生徒の特徴や問題点をしっかりと把握し、対策を立てていくことが重要です。その分析結果をもとに、各学校において、指導教諭やベテラン教員を中心に、授業改善に取り組み、学力向上につなげていっていくような取組みがなされることを期待します。

不登校（不登校を理由に年間30日以上欠席）の状況にある1,000人当たりの人数が、小学校中学校ともに大きく増加していることも課題として指摘されます。コロナ禍のなかで、他者とのかわりを苦手とする児童生徒の増加も一因として考えられますが、不登校の原因は事案により多様で複合的です。ケースごとにしっかりと分析したうえで、SCやSSWとも連携しつつ、組織的な対応をさらに充実していただきたいと思います。

生涯学習や文化・芸術活動の推進については、中津市では、「不滅の福澤プロジェクト」や「三津同盟」などを核にした様々な企画が、学校教育課と連携もしつつ展開され、地域の魅力を発信し、市民

の学習活動を支援していることに非常に魅力を感じました。今後も、こうした取組を続けることで、子どもたちに郷土に対する愛情や関心を高める機会として、拡充していただきたいと思います。

教育委員会活動の充実については、総合教育会議において市長と教育委員が緊密な連携をとり情報共有が行われています。今後、教育委員会においては、学校現場の視察や先進地の視察を実施しつつ知見を深め、一方で防災や観光などの首長部局の多様な部署との連携も深め、総合行政の観点から中津市の教育のさらなる推進に努めていただきたいと思います。

IV おわりに

『中津市教育振興基本計画』においては、計画期間を通じて目指すべき教育の姿、基本構想として、次の目標を掲げています。

「安心づくり」「元気づくり」「未来づくり」を基本として

- ・ 自立する力を育て、社会で活躍できる人材の育成
- ・ いつでも どこでも 学べる環境づくり

これら目標の実現に向けては、さらに以下の（１）から（４）の４項目の達成を図らなければなりません。

- （１）義務教育修了までに、責任ある社会の一員として自立していくための基礎となる、知、徳、体、食にコミュニケーションを加えたバランスのとれた力を育てます。
- （２）学校、家庭及び地域住民その他の関係者が、教育におけるそれぞれの役割と責任を自覚するとともに、相互の連携及び協力を図れる体制づくりを確立します。
- （３）誰もが生涯にわたり学ぶことができる環境を整備し、文化芸術活動やスポーツに親しむ機会を充実させます。
- （４）地域固有の文化・芸能の継承と保存整備に取り組みます。

自立する力

学習環境

令和５年度においては、４項目を施策別基本目標、２５項目を具体的な施策として取り組んできましたが、全体目標の達成に向けて効果的かつ着実に推進するためには、事業の点検とその結果のフィードバックが不可欠であり、今回の施策評価の過程においても、多くの課題が浮き彫りになりました。そのため、実施した施策について、計画（Plan）→実行（Do）→評価（Check）→改善（Action）のPDCAサイクルにより適応性や目標達成度、有効性の観点から自己点検・評価を行い、これを市民に公表し、市民の意見等の把握・反映に努め、次年度以降の進行管理を行っていきます。

